

読む・知る・つながる大体大マガジン

OUIHS

OSAKA UNIVERSITY OF HEALTH AND SPORT SCIENCES

Vol.231 2023.12.22

JOURNAL

〈旬な大体大生〉

侍ジャパン女子代表

白石美優さん

SHIRAISHI MIU

〈巻頭特集〉

ラーニングコモンズに
いらっしやい

大
体
大



大阪体育大学

OSAKA UNIVERSITY OF HEALTH AND SPORT SCIENCES

旬な大体大生

侍ジャパン女子代表

しら い し み う
白石 美優さん

体育学部3年・硬式野球部女子

京都・福知山成美高校出身。
プロチームの京都フローラ、愛知ディオーネで計3年プレーし、2021年に本学に入学。同年9月の全日本インカレ初優勝に貢献した。ポジションはセンター。



インタビュー動画

9月13日から17日にかけて、広島県三次市の三次きんさいスタジアムで開催された「第9回WBS女子野球ワールドカップ・グループB」で5戦全勝し、2024年にカナダ・サンダーベイで開かれるファイナルステージへの進出が決定した侍ジャパン女子代表。

大学の所属選手として唯一代表に選出された本学硬式野球部女子の白石美優選手（体育3年）は「ピンチの時の侍ジャパン女子代表の底力を感じた。女子野球の認知度が少しでも上がったのでは」と振り返る。将来の夢は指導者。11月には恩師の招きで小学校での講演も引き受けた。「侍ジャパン女子代表や硬式野球部女子で学んだ経験をしっかりと伝え、女子野球を広めていきたい」と意欲も高い。

来シーズンは最終学年で迎える。「集大成として、いい結果を出していきたい」と意気込んだ。

interview

〈白石選手インタビュー〉

―女子野球ワールドカップ・グループBを振り返って。

チームは5戦全勝しましたが、私自身はレギュラーとして出る機会が少なく、代打・守備を大切にして取り組みました。

―2戦目の9月14日のフランス戦では、スタメン起用でヒットに犠牲フライにと活躍した。一方、9月15日のベネズエラ戦では、緊張の場面での代打起用にヒットで応えた。

ずっと準備をしていて、いつでも行けますとアピールしていました。フルスイングの結果ヒットになったので、チームにいい流れを持ってこられたかなと思います。

―3連覇を達成した第3回BFA女子野球アジアカップ（5月21日～6月1日、香港）との違いは。

日本開催で観客数も多かったのですが、女子プロ野球の時の感覚が戻ってきたと言いますか。ヒットを打ったり、いいプレーをしたりすると歓声が上がるので、そういったところでもやりがいを感じました。

―ワールドカップファイナルステージに向けて。

グループステージでは、自分が思うようなプレーができなかったのですが、そこでしっかり結果を出すために、今何をしないといけないかを考えながら、しっかりと楽しめるように取り組んでいきたいです。



盛り上がったステージ企画



アームレスリング



クイズ体大王の様子



白熱した球技大会



飲食の模擬店やフリーマーケットのブースが並んだ



地域の子供たちが楽しんだOUHS運動会

大阪体育大学の学園祭「第56回雨山祭」が10月28日と29日の2日間、熊取キャンパスで開催された。

今年の雨山祭のテーマは「New Entertainment OHS」の頭文字を取った「新しい」という意味がある「NEO」で、常に新しさを求めて様々なことに挑戦していかうという思いが込められた。

職員駐車場に設けられた野外ステージでは、ダブルダッチ部やダンス部の発表をはじめ、お笑いライブ、本学出身のYouTuberらのトークライブ、のど自慢、クイズ大会、早食い選

手権などの企画を展開。

大学構内をコースにした障害物競争「雨山杯」、アームレスリング、体育館でのドッジボール大会など、体育大学らしい企画も繰り広げられた。

初日の28日には、サッカーグラウンドで小学生を対象にした「OHS運動会」が開催され、参加した地域の子供たちがサポート役の大学生とともに、借り物競争や大玉転がし、椅子取りゲームなどのプログラムを楽しんだ。

会場にはコロナ禍前と同様に飲食の模擬店、フリーマーケットのブース、キッチンカーなどが並び、和やかな雰

囲気の中、学生をはじめ、地域住民ら、訪れた人たちがそれぞれ休日の一日を楽しんでいた。

雨山祭の企画・運営を担う実行委員会は1年生が主体で、2年生の実行委員長らがまとめた。雨山祭実行委員会の宮崎英史実行委員長(体育2年、サッカー部男子)は「コロナ禍ですっきりできなかった企画を全面的に復活させ、今年の雨山祭が新しい基準になり、これからの雨山祭につながっていけば」と話していた。

contents

01 旬な大体大生

02 学園祭「第56回雨山祭」熊取キャンパスで開催

03 巻頭特集

ラーニングコモンズにいらっしやい

05 NEWS

- 公立学校教員採用試験結果
- 名誉教授称号授与式

09 大体大PEOPLE

飯田 瑠美・B.LEAGUE 青森ワッツ
アスレティックトレーナー

11 EVENT

- フレンドリーマッチ VS 関大
- 長崎・長与町で現地開講式
- カナダ州代表招き体操競技会
- 宇津木が銀メダル4個
- 「復興感謝の集い」に参加

13 コラム 窓

14 コラム ボーシャー



ラーニングコモンズにいらっしやい

昨年、中央棟3階に新設されたラーニングコモンズ。ラウンジ風のスペースに学習のサポートを担当するチューター、現役学生・大学院生のピアチューターが常駐する。学生が好きな時に訪れて学習のサポートを受けたり、相談したり、自習したりできる開放的な空間だ。

友人と連れ立って訪れ、テーブルでチューターと会話したり、お昼休みに弁当を食べてから自習を始めたり、パソコンやスマホのアプリの操作法を確かめに来たり。ラーニングコモンズの利用の仕方は様々だ。

ラーニングコモンズを運営する学習支援室は、長尾佳代子室長、的場美帆主任、山本敏浩マネージャー、教務補佐のほか、チューター10人、ピアチューター10人が所属する。チューターは他大学を含めて非常勤講師の経験がある30〜50歳代が務め、午前10時半から午後5時まで交代で1〜3人が常駐している。ピアチューターは2年生以上の現役学生か大学院生だ。

学習支援室は2009年、スポーツ推薦で入学する学生の学習面をサポートす



開放的な空間で気軽に相談、自習

ることを目的に設置された。その後、全学生を対象に支援を実施し、普段の授業に関する学習支援、各種公務員試験・SPI対策・教員採用試験対策など就職活動に関するサポート、その他個別の学習支援が主な業務だ。入学前教育にも力を入れている。

ラーニングコモンズは2022年4月、中央棟3階に設置された。2021年度に学生の個人用パソコンが必須化され、それに伴い、旧情報処理実習室にあった常設パソコンが撤去されることになった。そこで、情報処理センターと学習支援室が共同で提案し、浪商学園創立100周年記念事業によってこの部屋を誰でもアクセスできるラーニングコモンズへと改修した。学習支援室はもともとが研究棟（B号館）の4階の2室で活動していた。しかし、利用者の増加とともに手狭となり、また、コロナ禍で密を避ける必要も生じたため、新設されたラーニングコモンズに活動の場所を移した。

ラーニングコモンズは約140平方メートルと広く、アレンジが自由なテーブル数十台が置かれ、自動販売機や冷蔵庫、電子レンジ、ポットに流し台もある。自習で分からなくなった個所の質問、論文や作文のチェック、授業で出た課題の作成など利用の仕方は様々で、パソコンやスマホの学習アプリの操作法が分からずに駆け込む学生も。公務員試験などの合格を目指して毎日、熱心に利用する学生もいる。

的場主任は「開放的なラーニングコモンズが整備されたことで、学生にとって、友達同士で気軽に訪れるなど利用しやすい雰囲気になったと思う」と話している。

「よろず相談」の場でありたい



長尾佳代子
学習支援室長

を持っている学生が多く、学生の夢の達成をサポートすることも業務の一つとしている点は大きな特徴です。

ラーニングコモンズはどんな施設

学習支援室の本来ならではの特徴は、今後の課題は。長尾佳代子学習支援室長に聞いた。

学習支援室の他学にはない特徴は

学習支援室は全学生が対象ですが、設立された十数年前から、スポーツ選手のための学習支援を強く意識し今に至っています。また、本学は卒業後の進路として警察官、消防士、教員など明確な目標

友達と一緒に弁当を食べる学生もいて、自習室とは違ってくるのある場所です。静かな環境なら図書館もあるので、一人で集中したい学生は図書館で過ごし、ちょっと周りの友達と相談しながら、チューターやピアチューターと会話しながらという学生はラーニングコモンズに來たらいと思います。一番の大きな特徴は人が配置されていて、常に主任やチューター、学生のピアチューターがそこにいること。何か分からないことがあれば質問に答えてくれます。

学生はどのように利用したらいいか

講義の内容が分からない時や、どう質問したらいいか迷った時は、「とりあえずラーニングコモンズに行ってみたら」と声をかけます。気軽に聞ける人がいるし、学生同士で話をするので、気持ちを高めることができる場です。また、勉強だけでなく、スマホの学習アプリの操作に困った時などにも駆け込めるような「よろず相談」の場でありたいと思っています。

今後の課題は

現役学生らが指導するピアチューター制度は、これまで先輩に教えられた後輩が受け継ぐ体制が軌道に乗っていました。が、コロナ禍のため約一年半途絶え、昨年の後期から再開しました。先輩が学習だけでなく試験に対する心構えを伝えて成果も大きく出ている制度なので、再構築していきたいと考えています。

先輩ピアチューターが後輩の学習・就活を支援

ピアチューターは、就職が決まった4年生をはじめ、現役の学生や大学院生が後輩の学習や就職試験に向けた勉強をサポートするシステムだ。先輩ピアチューターのアドバイスを受けながら採用試験の勉強に取り組んで先輩と同じ東京消防庁に内定し、内定後は自分がピアチューターを務める青山由宇さん(体育学部4年)に話を聞いた。

ラーニングコモンズは、3回生の夏休みの後から毎日通いました。1年先輩のピアチューターから消防官試験の試験範囲や東京消防庁の問題の傾向などを教えてもらい、とても役立ちました。自分も後輩を同じようにサポートできたらと思い、ピアチューターを始めました。

このラーニングコモンズはチューターとの距離が近く、学生同士もそうですが、チューターの先生からいろいろなアドバイスがもらえます。ピアチューターの先輩はすごく応援してくれるので、やる気が出ます。ここに来たら、頑張れる気持ちになる空間です。

課題や勉強を一人ですることには不安があると思います。ここに来たら学生同士で協力できるので、課題ももっと早く、きちんとできます。もっと気軽に友達とぶらっと来るとい感じでいいので、ラーニングコモンズに足を向けてほしいと思います。

青山由宇さん
(体育学部4年)



運動クラブ生への学習支援

本学の運動クラブ所属学生に対する学習支援は、2022年、大学スポーツ協会(UNIVAS)から「学修支援に関する優秀取組賞」部門で最優秀賞を受賞した。

本学では、運動クラブ生が1年間で定められた単位数を取得できなかった場合、翌年半年間は対外試合の出場が停止となる。そうした状況に陥ることを防ぐため、学習支援室がスポーツ局と連携して、学生にラーニングコモンズでの学習を指導し、現在、約20名が定期来室している。

スポーツの総合大学として文武両道を追究する取り組みで、すべての学生がスポーツが授業で学んだ体育やスポーツ科学の知見を競技で実践できることを目指している。

公立学校教員採用試験 両学部61名が 現役合格 教育は実数で前年比4増

令和6年度（来春）採用の公立学校教員採用試験合格者の延べ人数が12月4日時点で61名（前年度70名）となった。重複合格を除いた実人数では、53名（前年度55名）だった。教育学部は延べ56名で前年度比3名減だったが、重複合格を除いた実人数では48名で、前年度を4名上回った。

体育学部の合格者は延べ・実人数とも5名（前年度はともに11名）だった。

両学部を合わせた校種別では、小学校34名、小中連携5名、中学校14名、高等学校1名、特別支援学校7名。

自治体別では、大阪府市の18名、兵庫県の5名など関西で27名。鳥取・愛媛両県で各6名、福岡県で5名、横浜市で3名が合格するなど合格者は北海道から沖縄県に及んでいる。合格者は今後、補欠合格などでさらに増える可能性があるほか、既卒者も高校を含む各校種に多数が合格している。

本学初代副学長をたたえ 大島鎌吉記念陸上 が創設



1964年東京五輪選手団長で本学初代副学長の大島鎌吉氏の功績をたたえる「第1回大島鎌吉記念陸上競技大会」が9月30日、10月1日に郷里の石川県金沢市・西部緑地公園陸上競技場で開催された。

大島氏は1932年ロサンゼルス五輪の男子三段跳びで銅メダル。東京五輪では選手強化対策本部長などを務め、五輪翌年の1965年に創設された大阪体育大学の初代副学長に就任した。

大会には、本学陸上競技部の丸山圭太主将（体育4年）も男子三段跳びに出場。



本学OBの石川陸上競技協会・藤垣晴夫事務局長は「大島先生の功績をたたえる大会を創設したかった。将来、日本グランプリシリーズに加わるのが夢です」と語っている。



名誉教授称号

森北、安場、浅井氏に授与

令和5年度大阪体育大学名誉教授称号授与式が9月28日行われ、3月末で退職した森北育宏元教授、安場敬祐元教授、浅井正仁元教授に証書が授与された。

森北元教授は整形外科医師として大阪市更生療育センター整形外科主幹兼医局長などを経て2005年、本学体育学部教授に就任。診療所長も務めた。

安場元教授は大阪体育大学附属福祉専門学校講師、大阪体育大学短期大学部助教授などを経て、2011年、健康福祉学部教授。2016年から2018年3

月まで学長補佐、同年から大阪体育大学図書館副館長を務めた。

浅井元教授は1980年から本学で助手を務め、2001年から体育学部教授。2017年から2021年3月まで体育学部スポーツ教育学科長を務めた。また、長年にわたりバレーボール部男子の監督を務めた。

式では、浅井元教授が欠席し、森北、安場元教授が出席。原田宗彦学長が2人に名誉教授称号証書を授与した。

土屋教授がメンタル向上術解説

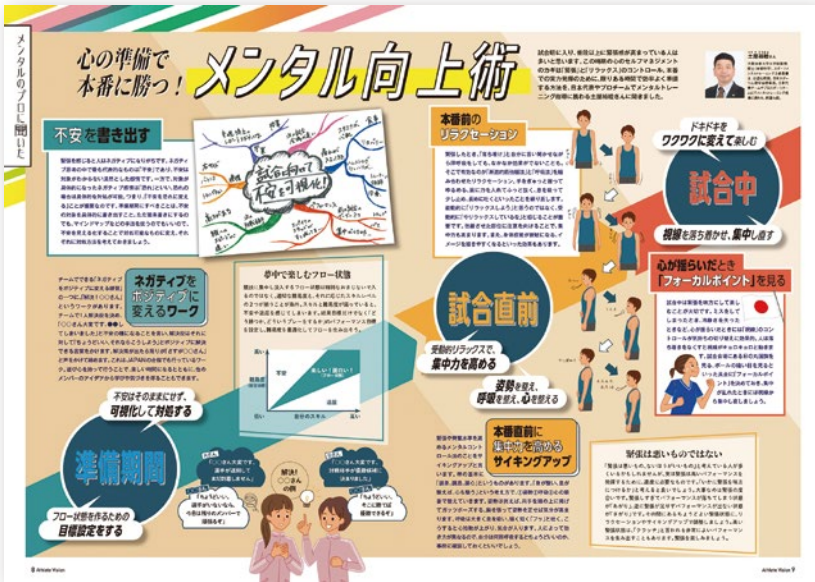
試合本番で実力を発揮するために、
限りある時間で効率よく準備する方法
は、日本代表やプロチームでメンタル
トレーニング指導に携わる土屋裕陸教
授が、学生アスリートを応援するフリー
マガジン『アスリート・ビジョン』
（#31）で解説している。

「緊張は悪いものではなく、高いパフ
オーマンスを発揮するために、適度に
必要なもの」

「試合前の準備期間は、『不安』はそ
のままにせず、書き出して見える化。
JAPANの合宿でも行い、ネガティ
ブをポジティブに変えるワーク『解決！
○○さん』」

「試合直前は、姿勢を整
え、呼吸を整え、心を整え
る。試合中は、心が揺らい
だら視線をコントロール
し、『フォーカルポイント』
を見る」

試合だけでなく、試験や
入試、就活やビジネスなど
各場面で役立つ内容となっ
ている。



アスリート・ビジョン



HPニュース

高校の大学見学が盛況



奈良県立商業高校の生徒が陸上競技場を見学



記念撮影をする鳥取中央育英高校の生徒



関西大学北陽の生徒がウォーミングアップの指導を受ける

本学熊取キャンパスで各地の高校か
らの訪問が相次いでいる。

9月以降では、5日の関西大学北陽
高校をトップに10校が来学（12月7日
現在）した。

高校生はバスで来学し、最初に入試
部のスタッフから大学の学部・各コー
スの特徴、取得できる資格、就職実績、
キャリア支援などの説明を受ける。

その後、多くのケースでは、キャン
パス内をスタッフの先導で見学し、野
球場、ラグビー場、サッカー場、陸上
競技場などの競技施設、図書館などを
見学する。ウェイトトレーニングマシ
ンが並ぶS&Cルームではスタッフか
らウォーミングアップがいかにか大切か
や正しいスクワットの方法などの説明
を受け、トレーニングを体験する場面
もあった。

入試部の古家一憲部長は「来学しな
いと体験ができない、体育大学のリア
ルなキャンパスや授業、先輩からのア
ドバイスなど、リクエストに応じたイ
ベントを用意していますので、ぜひお
越しください」と話している。

秋以降に本学を見学した高校は次の
通り。（12月14日現在）

関西大学北陽、滋賀県立水口、彦根総
合、岡山県立玉野光南、鳥取県立鳥取中
央育英、大阪府立大塚、奈良県立商業、
あべの翔学、大阪電気通信大学、兵庫県
立杜、長崎県立五島、初芝橋本高校
※本学の見学をご希望される高校の方は、
入試部（072145317070）に
ご連絡ください。

ハンドボール部女子 インカレ10連覇達成

高松宮記念杯男子第66回・女子第59回全日本学生ハンドボール選手権大会は11月8日、北海道函館市の函館アリーナで男女の決勝が行われ、本学ハンドボール部女子が10大会連続11回目の優勝を果たした。

2018年の6連覇達成以来、男女を通じた最長連覇記録を更新し続けている。

決勝でハンドボール部女子は筑波大学と対戦。前半に12-13とリードされて試合を折り返したが、後半に14-11と追い上げ、26-24で勝利した。



インカレ10連覇を達成したハンドボール部女子



和田薫選手（体育4年）



胸上げされる楠本繁生監督

〈個人表彰〉

【女子】優秀選手賞：藤井愛子（体育4年）、石川空（体育3年）、和田薫（体育4年）／特別賞：竹内琉奈（体育4年）／優勝監督賞：楠本繁生
【男子】優秀選手賞：木太隆雅（体育4年）

中でも、和田薫選手（体育4年）と高来葵美選手（体育2年）がそれぞれ5得点、藤井愛子主将（体育4年）と石川空選手（体育3年）がそれぞれ4得点を挙げた。

大会10連覇を達成し、楠本繁生監督は「4年生を中心にまとまりのあるチームで、最後まで諦めずに粘り強く戦えたことが勝利につながったと思う」と、藤井愛子主将は「今までやってきたことをすべて出し切って、最後は楽しもうという気持ちだった」と振り返った。

一方、男子は準決勝で中央大学と対戦し、激闘の末に32-33（前半15-16、後半17-17）の1点差で敗れ、悔しい結果となった。

アジア大会ハンドボール女子

楠本JAPAN 史上初の金



金メダル獲得を報告した楠本監督、石川選手

第19回アジア競技大会（中国・杭州）のハンドボール女子で、日本代表は10月5日、決勝で韓国を29-19（前半14-8）で破り、男女通じてアジア大会史上初の金メダルを獲得。8月のパリ五輪女子アジア予選で24-25の1点差で敗れた相手に雪辱した。

女子日本代表「おりひめジャパン」は本学の楠本繁生教授が監督を務め、選手16名中卒業生が11名、現役でも石川空選手（体育3年）が参加している。

日本は決勝で、卒業生の相澤菜月選手（北國銀行）が両チーム最多の6ゴール。石川選手も2位タイの4得点を挙げた。

楠本監督と石川選手は野田賢治理事長、原田宗彦学長らに優勝を報告。楠本監督は「日本代表チームはまとまりがあつて、自分たちの良さを出しながら戦うことができた」と、石川選手は「日本代表のユニフォームを着て、国として戦っているという気持ちで試合に臨んだ」と振り返った。



日本ハンドボール協会提供

硬式野球部男子を30年間率いた中野和彦監督が、阪神大学野球秋季リーグを最後に引退し、ゼネラルマネジャー（GM）に就任した。

中野氏は本学4年生の時、学生監督を務め、浪商学園職員だった1994年に硬式野球部監督に就任した。

春秋通算26回のリーグ優勝を果たし、2000年春から03年春までリーグ記録の7季連続優勝を達成。06年の全日本大学野球選手権大会で



胴上げされる中野監督

硬式野球部で日本一 中野監督 30年の指導に幕



中野監督の最後の試合には多くの卒業生がスタンドに駆け付けた

阪神大学野球リーグ勢として初の優勝を果たした。

また、元米大リーグレッドソックスの上原浩治氏や元巨人・米大リーグインディアンズの村田透氏、現中日・松葉貴大投手、現楽天・酒居知史投手ら多数のプロ野球選手を育てた。

最終戦となった10月8日は、全日本優勝メンバーの村田氏ら多数の卒業生がスタンドに詰めかけ、声援を送っていた。試合後、中野氏は相手チームの選手も輪に入って見守る中

で胴上げされ、スタンドの卒業生と一緒にグラウンドで記念撮影をした。

本学OBでスポーツ局員の松平一彦コーチが後任の監督に就任した。

中野氏は「30年間、楽しく野球をやらせてもらいました。ほかが一番嫌なのは、監督が決めてつけて強制的に練習させること。松平監督には、学生の自主性を大切にし、社会に通用するような学生を育ててほしい」と話している。

交通ルール講習会 署員が「大麻NO!」も呼びかけ

泉佐野警察署員らが交通安全などを訴える交通ルール講習会が10～11月、全学生に参加を義務付けて計8回開催された。

講習会の受講は乗用車の通学許可証、自転車やバイク通学申請の条件になり、同署交通課員らが「事故を起こせば、程度の軽重を問わず、必ず警察に通報してほしい」などと呼びかけた。

続いて、生活安全課員が違法薬物について「大麻の乱用で検挙される若者が増えるなど、深刻な状況が続いている。薬物のうわさがある場所に近づかず、誘われたとしてもキッパリと断ってほしい」と呼びかけた。

このほか、痴漢や特殊詐欺に関する講習もあり、学生は熱心に聴き入っていた。



全学生に参加が義務付けられている交通ルール講習会

渡米し英語を一から学び国家資格取得 感謝を忘れず明確な目標を



飯田 瑶美 (いいた・たまみ)

1991年11月24日生まれ、32歳。大阪体育大学体育学部健康・スポーツマネジメント学科卒。浜松海の星(現浜松聖星)高校の時、ひざを痛めてバスケットボール選手を諦めたことを契機にアスレティックトレーナーを目指す。本学卒業後に渡米し、米国の国家資格であるATC(米国アスレティックトレーナー資格認定委員会公認アスレティックトレーナー)を取得。2021年からプロバスケットボールBリーグの愛媛オレンジバイキングス、今年から青森ワッツでアスレティックトレーナーを務める。



B.LEAGUE 青森ワッツ アスレティックトレーナー

飯田 瑶美さん

〈アスレティックトレーナーを志したきっかけ〉

バスケットボール選手だった高校2年の時、ひざの半月板の手術を2回受けました。理学療法士の方は、日常生活への復帰までは担当してくれますが、その後、競技復帰するまで見てくれる人がなかなかいない。自分がこのけがの経験を通して社会に対して何かできないかと考えていた時、母校でBリーグの仙台89ERSが前日練習していた、チームのATCの資格を持つアスレティックトレーナーに会うことができました。その方に教えてもらい、初めて仕事の内容を知りました。また、国内の資格ではなく、外国でも通用するATCの資格を取り、外国選手と通訳抜きでコミュニケーションできるようになりたい、最先端であるアメリカで学びたいと思い、英語を学んで、米国で資格を取ることを決めました。

〈大学時代の活動〉

2010年に大阪体育大学に入学しましたが、その時にはトレーナーにな

高校時代のけがをきっかけに、アスレティックトレーナーを目指して本学に入学。卒業後に渡米して英語を一から学び直すなど苦勞の末、米国家資格であるATCを取得した。11月27日、母校で2年生を対象に、就職活動に向けたキャリアデザインの授業で講義。「自分がやりきれなかったバスケットボールを、スポーツ業界の中にいて、間近でサポートできることはすごくうれしい。皆さんは周囲への感謝の心を忘れず、自分の将来に向けて明確な目標を持ってほしい」と語りかけた。

〈米国の語学学校で〉

ることを決めていたので、すぐにアスレティックトレーナー(AT)チームに所属しました。米国への留学もその時には決めていましたが、まずは日本語で徹底的に知識を入れたいと思い、実習、勉強会、講習会、マラソン大会のサポートなどに従事しました。一方で、母校の恩師の紹介でBリーグの三遠ネオフェニックスにインターンシップで参加することができ、チームへの帯同や練習のサポート、アスレティックトレーナーの補助などを経験しました。

アメリカでは5年間過ごしましたが、最初、英語はまったく分からない状態。語学学校に1年間入学し、先生に許可をもらって授業をスマホで録音し、家で聴き直しました。赤ちゃんがしゃべることができるのは、日本語に囲まれて育つから。自分も同じように徹底して日本語を使わず、英語に囲まれました。アメリカにいた5年間のうち3、4年は日本語を使わず、自分を追い込んだ状態。半年ほど帰国した時も、家

族とのあいさつ以外は日本語を絶ち、アメリカのドラマを見たり、留学先の友人と電話したりして過ごしました。

〈アスレティックトレーニンング留学〉

その後、オクラホマ州にある大学に入学し、アスレティックトレーナーの授業を受けました。180時間の実習が必要で、1日のスケジュールは、朝7時から1時間トレーニングルームで実習し、その後、授業。午後からは実習で、アメリカンフットボール、バスケットボール、バレーボールなどのチームに7時ぐらいまで帯同します。すべての授業で課題が出るので、夜中の0時まで宿題。それからアスレティックトレーナーの勉強をして寝るのは午前



学生時代に何度も相談した宮崎光弘キャリア支援部長と

3時から4時。それでも、しんどいと思っただけではなく、自分がやりたいことだったので、楽しい日々でした。

大学で2年間学びATCの資格を取った後、大学院で働きました。アメリカンフットボールの選手が300人ぐらいいて、5人のATCで対応しましたが、「どれだけ巻くの」と思うぐらい無数の脚にテーピングを巻き、ここで鍛えられました。7時にトレーナーの仕事が終わり、それから大学院での授業と課題、治療プラン作成をこなす日々でした。

〈現在のBリーグでの活動〉

2021年に帰国し、愛媛オレンジバイキングス、今年から青森ワッツでアスレティックトレーナーを務めています。トレーナーの仕事はけがの治療はもちろんですが、シーズン中のトレーニングのほか、オフシーズンには「この選手はここが足りないからここを鍛えよう」など選手それぞれのトレーニングを考えます。同じメニューではなく、選手が飽きないように別の内容を考えます。試合前のアップはストレンクス担当が実施するチームもあります。が、愛媛、青森では私の担当です。また、メディカル系もすべて担当しますが、大事なことはコーチ陣、ドクター、選手の連携。トレーナーは、ドクターと選手の間にあって、専門用語でなく分かりやすけがの内容や程度を伝えます。コーチはすべての選手を使いたいですが、トレーナーは選手生命を考えま

す。コーチが出したいと言っても、このけがの状況では出せない、はつきり伝えることも大切です。

〈やりがいについて〉

自分がやりきれなかったバスケットボールを、スポーツ業界にいて、間近でサポートできるのはすごくうれしい。トレーナーは表に立つ仕事ではないが、選手が思い切りプレーしている姿をみるのが一番のやりがいになっています。



選手とコミュニケーションを取る飯田さん=青森ワッツ提供

〈最後に〉

学生の皆さんに伝えたいのは、私が青森ワッツでトレーナーとして働き、この教室にいることは、大学のキャリア支援部や両親、応援してくれる人がいたから。感謝の気持ちを絶対に忘れないようにしています。皆さんも、ここで授業を受けることができる環境に感謝してほしいと思います。また、明確な目標を持つことが大切です。目標を達成したか否かが大事なのではなく、目標に向かって行動していくことが重要です。

ハンドボール部男子交流戦 フレンドリーマッチ VS 関大

FRIENDLY MATCH 2023



4年生部員を中心に熱戦を繰り広げた

ハンドボール部男子交流戦「フレンドリーマッチ2023 大阪体育大学×関西大学」が11月20日、本学第6体育館で開催され、約400人が来場した。両大学とも4年生部員を中心にゲームに参加。12月の日本選手権に出場する選手を除くと、フレンドリーマッチが4年生部員の引退試合を兼ねることになり、参加した選手らは大学でのクラブ活動で培った技術をゲームで発揮していた。

交流戦の結果、33-29（前半16-14、後半17-15）で、本学が関西大学に勝利した。



スポーツマネジメント専攻の学生らを中心に企画・運営を担った



ハンドボールの体験会も開かれた

フレンドリーマッチにあわせ、地域の小中学生を招いたハンドボールの体験会をはじめ、なぎなた部、ダブルダッチ部のパフォーマンス、11月の全日本インカレで10連覇を達成したハンドボール部女子の報告会なども実施され、会場を盛り上げた。

フレンドリーマッチはスポーツマネジメント専攻の学生らを中心に企画・運営を担い、ポスター、チケットの制作、販売、会場設営などを進めてきたもので、学生らは本番の大会運営を通して、スポーツマネジメントの実践経験につなげていた。



現地開講式に参加したスポーツ指導者の皆さん

運動部活動指導認定プログラム 長崎・長与町で現地開講式

運動部活動指導に携わる人材を養成する社会人向けリカレント講座「運動部活動指導認定プログラム」の秋開講・現地開講式が10月15日、長崎県長与町で行われた。長与町は今年度から町立中学3校の運動部活動12種目をすべて地域スポーツ活動へ移行し、約400名の生徒が参加する部活動改革の先進地。兼職等の教師20名、大学生ボランティア30名などの指導者約120名が活動を支えている。

15日は、運動部活動改革プロジェクト・チームリーダーの中尾豊喜教授が同町を訪問。特定非営利活動法人総合型SC長与スポーツクラブから受講料を一部補助された指導者14名に、「部活動の意義と位置付け」「生徒指導に係る対応」の2講について、グループワークを交えて講義した。

秋開講は全国から約50名が参加している。



演技する体操競技部員

カナダ・ブリティッシュコロンビア州の代表選手と大阪体育大学体操競技部の選手らが華麗な演技を競い合う競技会「2023 OUHS GYMNASTICS INVITATIONAL」が12月3日、本学の体操競技場で開催された。

同州の代表チームから藤原敏行監督に日本での強化試合について相談があったのがきっかけ。本学で外国チームを招いた体操競技の試合を開催するのは初めてで、体操競技部男女の部員が本学のクラブ統括部局であるスポーツ局のアドバイスを受けながら、ポスターの制作や開閉会式の準備・運営、座席の設置など会場の設営にあたった。

競技会はシニア、ジュニアに分かれ、浪商学園が学内で運営している子ども体育教室「トップスポーツクラブ」のほか、2016年リオデジャネイロ五輪団体総合金メダルの田中佑典選手（田中体操クラブ）も参加した。



2023 OUHS GYMNASTICS INVITATIONAL カナダ州代表招き 体操競技会

競技会では、目の前を跳馬の選手が駆け抜けてダイナミックに着地するなど、普段の競技会の観客席では体験できない迫力ある演技に、満員の観客約400人から大きな歓声と拍手が寄せられた。

同州代表チームのソレスティン・フィッシャー団長は「大阪体育大学の皆さんのサポートのおかげで、このような場を経験できたことに感謝します」と閉会式で話した。



地域の方や体操ファンで満席となった2023 OUHS GYMNASTICS INVITATIONAL



アジアパラ大会競泳 宇津木が銀メダル4個

中国・杭州で10月に開催された杭州2022アジアパラ競技大会で、宇津木美都選手（教育3年）が競泳日本代表の主将として参加し、銀メダル4個を獲得した。

宇津木選手は100m平泳ぎ（SB8、1分27秒62）、100m背泳ぎ（S9、1分18秒86）、400mメドレーリレー（4分49秒76）、400mフリーリレー（4分28秒64）で2位。100mの背泳ぎ、自由形、バタフライで自己ベストをマークした。「100m平泳ぎは金メダルを狙っていたので、1位に0秒09差で負けて悔しい気持ちが残るが、これまでやってきたことが型にはまって自己ベストなど結果も出てきている。それを続けていって、3月にも予想される選考会に向けて突っ走っていきたい」と話している。

被災地・南相馬市から感謝状

「復興感謝の集い」に参加

2011年の東日本大震災で被災した福島県南相馬市で11月18日、「復興支援感謝の集い」が開かれ、本学社会貢献センターが招かれた。

本学は大震災直後から南相馬市のNPO法人と連携し、学生らが復興を支援する「サンライズキャンプ」を毎年実施。旧避難指示区域の高低区を活動拠点に、高齢者への体力測定や仮設住宅でのサロン活動など、その時のニーズに合わせて内容を少しずつ変えながら支援活動を継続してきた。



感謝の集いに参加した中山健社会貢献センター長（右）ら

今年は8月29日から3泊4日で、学生16名と主管する社会貢献センターの教職員ら21名が参加。南相馬市の体育センターで高齢者の体力を測定する「お元気度チェック」、地域の方と卓球を楽しむスポーツ交流会、小学生とのスポーツ交流、被災地にある神社での清掃活動、原子力災害伝承館の見学などを行った。

これらの活動に対して2021年、社会貢献センターが南相馬市から感謝状を授与され、コロナ禍が収束した今年、感謝の集いが開かれた。

集いには、社会貢献センターから中山健センター長、池島明子教授、事務局の樋口幸代さんが参加。門馬和夫市長のあいさつやトークイベントなどがあり、翌日は津波で被災した沿岸部の防潮堤や海岸防災林などを見学した。

中山センター長は「現在の南相馬は、物理的な環境整備という意味でのハード面の復興は一段落して、コミュニティや人と人との繋がりの再構築といったソフト面での復興を目指している段階であると感じました。また、現地には、がれき撤去や仮設住宅における交流事業など当初の取り組みとは異なる多くのニーズがあり、これからも体育・スポーツ、教育を専門に学ぶ本学学生が現地で担うことのできる活動は多岐にわたると実感しました」と話している。



今年のサンライズキャンプに参加した学生ら

窓

◆私が受け持つ「スポーツメディア論」で、入社5年の若手スポーツ記者に出張授業をしていただきました。彼女が、これまでで一番の思い出として挙げた取材は、今年のセンバツ高校野球に21世紀枠での出場が決まった城東高校（徳島）を訪れた時のことだったそうです。

◆女子マネージャーが普段からノックを打っていて、センバツでは甲子園史上初の女性ノッカーになることが、大会前から話題になっていました。記者が取材を終えて帰る際、マネージャーがほろりと涙を流したそうです。なぜ、と聞くと、SNSで「どうせ話題づくりだろ」などと言葉を浴びせられていると明かされました。この記者はマネージャーから詳しい話を聴きながら、いっしょにもらい泣きました。書くべきかどうか悩んだ末に、マネージャーの思いを伝えたいと記事にしたそうです。記事は大きな反響を浴びました。

◆ネット時代の今、記者にはこれまで以上に「読者に読まれる記事」が求められています。読まれる記事とは。相手の話にもらい泣きするほど記者が共感し、その思いが記事で伝わるかどうか、一つの答えになるのかも知れません。これは記事だけでなく、広報活動も同じことでしょう。真剣に話を聴く学生たちの姿を見ながら、そう考えました。

【大坪康巳】

あなたという私



コラム **ボーシャー**

名誉教授 和田隆夫

自分自身の姿を自分で見るという幻覚をドッペルゲンガー現象と呼ぶそうだ。見たことはないが、幻覚は見たことがある。10年ほど前に、肝臓の一部切除手術を受けたとき全身麻酔だった。手術後の集中治療室で、目を開けると(本当に目を開けていたかどうかはわからない)、天井に漢字の列がプロジェクトマッピングのように流れていた。識字はできても文章として理解できない。ときおり見たこともない怪奇な漢字らしきものも出現する。病室の隅には赤いスカートの少女が立っていた。恐怖はない。目を閉じると、一瞬のうちに凍った雪の原野にひとり立っていた。どちらも幻覚であることは理解していた。そのときよこしまな私は、幻覚の世界なら自分の行きたいところに行けると思い、新地のバーを思いえがいたが、まったく自由にならなかった。

ドッペルゲンガーのようなもう一人の自分がイメージをもってあらわれることはないけれど、さっきまで感じていたことや考えていたことに対して突然に違和感を覚える意識の変容はある。あるいは水のような冷氣のかたまりが体を駆けぬけて、さっきまでの自分でなくなる感覚もある。このことを「我にかえる」という言葉で納得するようにしてきた。

飼犬のあきが死んだ頃、妹が吉原幸子の『オンディーヌ』という詩集をくれた。詩集のなかで、吉原幸子は「あなた」に語りつづける。その言葉は透明でみずみずしく、私は聴きいった。

彼女が語りかける「あなた」とは、現実と対峙する私とは違うもうひとりの私のことです。自分のなかにおいて、「純粹」を身にまとい、リアルな私を慰めたり、戸惑わせたりして、急にあらわれて、気づかれないうちに隠れてしまう。こういう「あなた」は、だれでも自分のどこかに隠れているはずだ。

その頃、世間では「自分さがし」がブームになっていたが、私は、そんなことはお構いなしに、自分のなかの「あなたさがし」に夢中だった。

「水

わたしのなかにいつも流れるつめたいあなた

純粹とはこの世でひとつの病気です

愛を併発してそれは重くなる

だから

あなたはもうひとりのあなたを

病気のオンディーヌをさがせばよかった」

(「オンディーヌ」より抜粋)

人は自分のなかの「あなた」とふいに会える瞬間がある。

1981年から2年ほどドイツにいた。初めの4ヶ月間西ベルリンのゲーテ・インスティテュートで語学研修を受けた。当時のベルリンはまだ壁で分断されていた。私はどうしても「あの時の」ベルリンで生活したかった。まだ30歳になる前で、青春はどのように終わるのだろうと青春に倦む不遜な年頃だった。そこで4ヶ月は、たくさんの不思議な人たちとの出会いの時間だった。ファンタジーのような現実だった。空き家を占拠して暮らしていた学生、ポーランドから逃げてきた経済学専攻の大学院生、ベルリンの壁を乗り越えてきたドイツ人、アフリカ系のラテン語教師、「東ドイツにある故郷にもう一度帰りたい」と繰り返す定食屋でよく一緒になった老婦人、ベトナムのポートビーブルの女の子、妻の難病を治すためにドイツ

に研究に来たギリシャ人の医師、チリから亡命した男の子、そういえばパン職人になりたいと言っていた。そうそう田中小実昌さんもいた。みんなと限られた時間のなかで忘れがたい交流があった。なぜだろう。いろいろ考えたが、結局のところリアルな私が「あなた」と入れ替わり、純粹な好奇心でまっすぐに人に向かっていったからではないだろうか。そう考えるとどこで入れ替わったのだろう。ふりかえると少し気になるシーンを思い出した。

西ベルリンに着いてまだ間もない頃、早朝にティアガルテンという広大な公園を彷徨した。森のような公園で野鳥の声に引きよせられ、カモの親子と一緒に小川のきわを歩き、静かな散歩者たちを追い抜いたりしていた。道に迷いながら、迷っている自分が愉しかった。迷っている私を観察している「あなた」がすでにいたのかもしれない。

そのうちに疲れてベンチにすわった。そこへ足が不自由なために杖を持つ老婦人と腕をかく同年配の男性がゆっくり歩いてきた。横をアメリカンコッカスパニエルが歩調を合わせて歩いていた。それもまるで二人の守護神のように威厳をもって歩いていた。女性は茶のコート、男性はジャンパーと軽装だった。ゆっくりと腕を組んで黙って歩く二人と犬は精美な静けさに包まれていた。こんな些細な日常に私は敏感になっていた。

昼すぎにティアガルテンを出て、クーダムに出た。銀座のような大通りで人の往来が多い。カフェテラスで行きかう人々を風景として眺めながらコーヒーを飲んでいて。森から抜け出て、見知らぬ多くの人に囲まれていると、自分以外のすべてのものとなんら係わっていないという強度の自己疎外感がよみがえり、そこから生じる自己の存在感のなさのために、このすべての現実をたんなる風景画として見ている私がいた。さっきまでの「あなた」はいなくなり、リアルな自分に戻っていたのだ。

二杯目を飲もうとカップにコーヒーを注いでいると、急に寒気を感じ、空から白いものが私の心をめがけて落ちてきた。雪だった。春の雪だ。

道行く人の歩く速度は変わらないが、雪はやさしく、冷たく降っていた。なぜか、この瞬間にベルリンと出会ったように感じた。それを感じられる自分がいた。「あなた」が自分になっていくようだった。顔に触れる雪は冷たかった。

カップに注ぐ3杯目のコーヒーに雪は溶けていった。

9月に南西ドイツのフライブルクに移り、1年6ヶ月いた。

雪と一緒にやってきた「あなた」はいつまで私だったのか。手術後の幻覚を見ていた私は「あなた」ではなかったと思う。病気という圧倒的な現実の前でちぎこまっていた私はリアルな私だった。「あなた」なら天井の漢字を読みつづけるだろうし、氷の荒地でなにかを待ちつづけるだろう。

「さびしいなんて

はじめから あたりまえだった

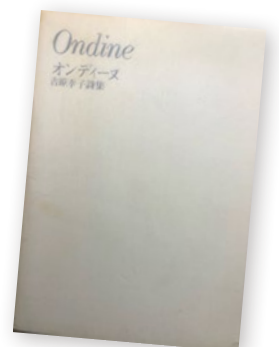
ふたつの孤独の接点が

スパークして

とびのくように

ふたつの孤独を完成する」

(「オンディーヌ」より抜粋)





本物を学び、極める

大阪体育大学

【大学院】

- スポーツ科学研究科
博士（前期・後期）課程

【体育学部】

- スポーツ教育学科
- 健康・スポーツマネジメント学科

【教育学部】

- 教育学科

大学事務局

庶務部、教学部、入試部、広報室
キャリア支援部、大学院事務室

大学附置施設等

図書館、スポーツ局、社会貢献センター
情報処理センター
スポーツ科学センター
国際交流センター、学習支援室

<https://www.ouhs.jp/>

OUHS ジャーナル 2023 年(令和 5 年) 12 月 22 日(金)

発行所：大阪体育大学 広報室 発行責任者 大坪康巳 協力：教育後援会・学友会

大阪府泉南郡熊取町朝代台 1-1 電話(072)453-7021 FAX(072)453-8818